

地域包括ケア体制の構築状況調査について

資料 3

～調査結果から読み取れる医療と介護の連携の現状～

(第7期長野県高齢者プランから抜粋)

1 調査の目的

市町村が地域包括ケア体制の構築に向けて、現状を把握し、目標を持って取り組めるよう、日常生活圏域ごとの構築状況について指標を用いて可視化した。(県内 155 圏域)

2 調査の概要

(1) 調査方法

市町村に対して、日常生活圏域ごとの地域包括ケア体制の構築状況について、自己評価するための 390 の指標を設定し、平成 29 年 11 月にアンケートを実施。

(2) 指標設定の考え方

地域包括ケア体制を構築する **7 分野**それぞれについて「整備（第 1 指標）」「取組進度（第 2 指標）」「効果（第 3 指標）」という **3 つの枠組み**で、具体的な指標を設定。

第 1 指標は、第 6 期計画策定時に実施した指標を見直したもの。

第 2・第 3 指標は、今回新たに追加したもの。

○ 3 つの枠組みのねらい

枠組み	ねらい
第 1 指標 整備されているか	事業・資源の有無、 整備状況を把握
第 2 指標 取組が進んでいるか	関係者の理解度や取 組の実施状況把握
第 3 指標 効果を上げているか	効果に繋がってい いるかを把握

○ 7 分野ごとの各種設定の指標数

分野	第 1 指標	第 2 指標	第 3 指標
①地域ケア会議	59	12	13
②地域包括支援センター	31	11	5
③医療と介護の連携	26	23	22
④介護サービス	38	6	0
⑤介護予防	17	16	14
⑥生活支援	35	20	16
⑦住まい	13	13	0

(3) 調査結果の分析方法

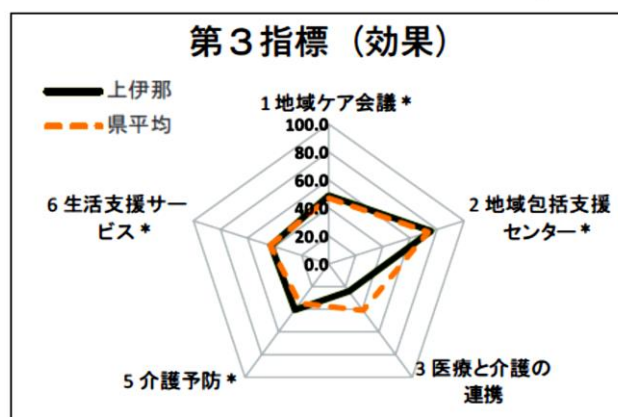
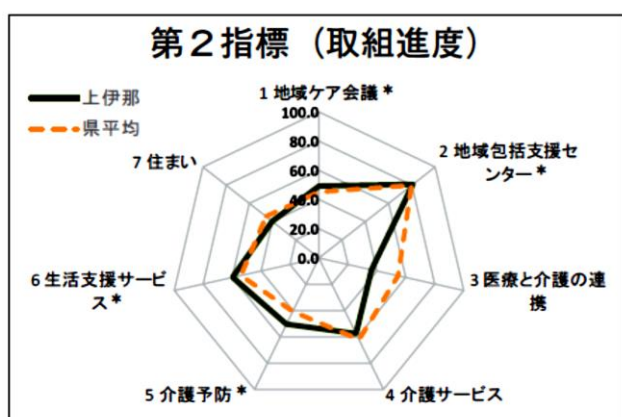
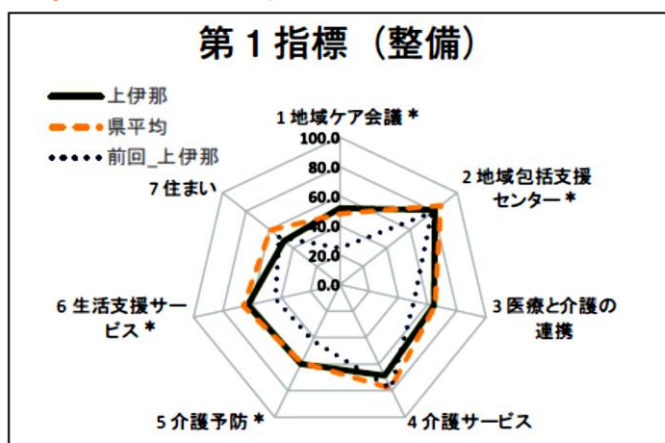
7 つの分野ごとに各指標の回答に応じ点数化し、100 点となるように按分して配点した上で、その合計値により地域包括ケア体制の構築に向けた進捗状況をグラフ化した。

(4) 調査結果の活用・今後の方向性

調査結果は、地域包括ケア体制構築に向けた市町村の取組を促進するため、各市町村にフィードバックし、地域包括ケア体制の構築状況をより明確に表せるものとなるよう、今後も市町村と研究・検討のうえ改善する。

次ページ 上伊那圏域の現状と課題

地域包括ケア体制構築に向けた現状と課題



分野		第 1 指標				第 2 指標			第 3 指標		
		配点	今回	前回	県平均	配点	今回	県平均	配点	今回	県平均
1	地域ケア会議*	100	51.9	24.9	48.1	100	49.2	45.1	100	49.0	46.8
2	地域包括支援センター*	100	81.2	78.4	86.2	100	81.0	79.7	100	75.8	73.5
3	医療と介護の連携	100	64.3	50.6	65.1	100	36.4	54.7	100	24.1	41.0
4	介護サービス	100	68.7	78.4	78.2	100	57.6	62.2	—	—	—
5	介護予防*	100	59.9	42.1	58.7	100	50.4	40.7	100	40.5	34.6
6	生活支援サービス*	100	62.9	44.1	65.9	100	59.7	54.0	100	42.8	43.3
7	住まい	100	47.6	51.7	59.4	100	40.3	45.6	—	—	—
計		700	436.5	370.3	461.5	700	374.6	381.9	500	232.1	239.4
7 分野全体の進捗状況		—	62.4%	52.9%	65.9%	—	53.5%	54.6%	—	46.4%	47.9%



上伊那圏域「医療と介護の連携」の現状（調査結果の分析）

- 第2指標（取組進捗）、第3指標（効果）について、県平均を下回っている。
- 指標数値の少なかった主な項目 ※①：第1指標、②：第2指標、③：第3指標
 - 医療と介護の連携を促進する人員・組織・体制（定期的な連携の場の設置） ①
 - 医療と介護資源に関する情報の共有・活用及び住民への提供 ②
 - 医療・介護関係者の情報共有ツールの整備又は普及 ②、③
 - 医療・介護連携に関する相談窓口設置・運営及び情報共有 ①、②、③
 - 在宅での看取り等を含む在宅医療や介護で受けられるサービス内容の周知・啓発 ②、③